

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (都市河川係長 糟谷 昌俊)	内線	4408 (4417)
------	-------	---------------------	--------------------------------	----	----------------

事業種目	河川	事業採択年度	S62		現計画	再評価時点
事業名	広域基幹河川改修事業 (二) 武庫川水系武庫川 (下流工区)	着工年度	S62	総事業費	787億円	703億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	152億円	164億円
事業区間	西宮市武庫川町～塩瀬町			完成予定年度	H30	-
所在地	尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市			進捗率 (内用補進捗率)	71%(46%)	48%(44%)
事業の目的				事業内容		
昭和58年9月台風10号と前線による大雨で、上流部では浸水被害が発生し、下流部でも堤防天端付近まで水位が上昇した。 このため、昭和58年9月台風10号の洪水に対応した治水安全度1/17を目標に改修を行い、地域住民の安全で安心な生活環境を確保するものである。				計画流量 実施内容	Q = 2,500m ³ /s (治水安全度1/17：甲武橋) L = 15,850m、W = 244.0m～57.3m 築堤、掘削、護岸、鉄道橋4橋 道路橋8橋、水路橋4橋、井堰等6箇所 等	
進捗状況	昭和62年度に着手し、これまで横断構造物の改築、河積拡大等を進め、下流西宮市、尼崎市域では約95%、上流宝塚市、西宮市上流でも約50%の進捗となっている。 再評価時(H10)から現在までに、特に重点的な整備を進め、阪急橋梁、川面井堰等の改築を行い治水上のネック部の解消を図った。今後も効率的な事業執行に努め、平成30年度に事業完了させる予定である。 また、河川整備計画を現在検討作業中である。					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	・高度に都市化された阪神間市街地を浸水被害から守るため、掘削、築堤、護岸、横断工作物の改築等の河川改修工事を実施しており、残区間の治水安全度を早期に向上させるため、継続的な整備を実施する必要がある。					
(2)有効性・効率性	・B/C = 38.3 ・道路事業者と連携して平成16年度から上武庫橋の改築に着手する。 ・マイタウン・マイリバー区間(宝塚市域)では、街路事業、市街地再開発事業と連携し、まちづくりと一体となった整備を行う。 ・発生土砂は、尼崎21世紀の森構想における事業用地の土地造成に使用することで有効活用を図る。 ・住宅地関連公共施設等総合整備事業の導入により重点的に整備を進めている。 ・現在、河川整備基本方針及び河川整備計画策定のための武庫川委員会(仮称)に先立ち準備会議を開催しており、事業に対する地域住民の意識は高い。					
(3)環境適合性	・「武庫川・川づくり計画検討委員会」を設置し、覆土護岸や木枠による水制工を採用するなど、人と自然が共生できる豊かな川づくりを行う。					
(4)優先性	・魚類等の遡上の妨げないよう井堰等には魚道を設置する。 ・残事業区間は河積が狭小で、治水上ネックとなる橋梁が存在することから、高度に都市化された阪神間市街地を浸水被害から防御する当該事業の優先性は高い。					
再々評価の結果	事業継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。			